

札幌スタイル コンセプト再構築に向けた札幌市の資源整理

調査の背景・目的

札幌市第4次長期総合計画では、第1部第2章において、札幌の魅力を以下のように記述している。

「石狩平野の南西部に位置する札幌には、豊平川をはじめとする多くの河川が流れ、市街地の周囲には緑ゆたかな自然環境が広がっている。気象は、四季の移り変わりが鮮明で、夏季はさわやかさが、冬季は積雪・寒冷が特徴であり、このような自然的特性が、札幌の個性を形づくっている。(中略) さらに、比較的歴史の新しいまちでありながら、北国の自然や気候に調和した独自の生活文化や都市景観も形成されてきている。

「このように札幌は、市民や訪れる人々が、さまざまな都市機能、快適な居住環境とゆたかな自然を併せて享受することができる素地と魅力を有している。」

このような札幌の魅力は、そのまま「札幌スタイル」のコンセプトの根幹となることから、これまでも様々な機会を捉えてその整理に努めてきた。

本調査は、札幌スタイルが新しい推進戦略のもとで、認証制度等の見直しを図っていくにあたり、これまで共有化されてきた札幌市の都市イメージなどを改めて整理するとともに、そのイメージの源泉について調査を行い、札幌スタイルのコンセプトの再構築に向けた基礎資料とすることを目的として実施する。

調査の視点

本調査では、これまでの札幌スタイルのコンセプトワークにおいて、その中心として据えられてきた「雪」にまつわるイメージのさらなる掘り下げと、あまり踏み込んで解釈されてこなかった有史以前の「交流」の2点に特に重点を置きながら、様々な文献資料等からの情報収集と再整理を行い、札幌スタイルのコンセプトの厚みを増すことを念頭に調査を進めた。

プロローグ

<札幌市鳥瞰図（昭和3年）>



(出典：札幌歴史地図、提供元：札幌市文化資料室)

札幌の街の中心は、札幌市役所、札幌駅があるあたりが、扇端（せんたん）で標高20メートル、真駒内の豊平川さけ科学館が標高80メートル。この間の直線距離が8キロメートル。緩やかで、20平方キロメートルの広大な扇状地です。

札幌の都心部はもともと、豊平川が定山溪のほうから土砂を運んできて6,000年前ぐらいまでに、堆積した地形ですので、護岸が進んでいなかった、明治時代は頻繁に水害に見舞われていたようです。とはいえ、川筋からはなれたところは、水のはげがよく、伏流水が豊富。井戸が浅くても良質の水が取れるので、居住しやすく、果樹栽培を含む畑作に優れた土地として利用されました。

札幌駅や大通公園のある扇端部分は、扇状地が終わり、氾濫原につながるところ、石狩平野につながるところです。この辺りで、先住者のアイヌたちが「メム」と呼んだ、湧水が至るところにありました。現在も、北海道庁の池、北海道知事公館の池、北海道大学植物園の池、北大構内のサクシュ琴似川、サ

ッポロビールや雪印乳業の工場立地がその名残を私たちに伝えてくれます。

札幌の地酒、千歳鶴の酒蔵、「丹頂蔵」の直下、地下150メートルの井戸からとる仕込み水も、豊平川の伏流水。時間をかけて岩盤の下にしみ込んだ水のミネラルバランスは絶妙で「この水がある限り、この土地を離れない」といいます。札幌の山に降った雪が、地中を流れ、100年以上かけて、この水になるのだそうです。

アイヌたちは、メムの廻りにコタン=集落をもちましたが、この湧水を目指して、大量のサケが遡ってきたのも容易に想像できます。サケはアイヌの言葉でカムイチエプ=神の魚と呼ばれています。現在もサケは豊平川で卵を産んでいます。産卵場所は豊平川の東橋（札幌駅と同じ標高）から幌平橋（大通公園、丹頂蔵、すすきの、中島公園の上流）まで。まさに200万人に届く街の都心です。鮭も人間もこの水を利用してきたのですね。

大通公園に象徴的に存在する三人の踊り子の像が「泉の像」と名付けられたことも「メム=湧水」をイメージしたものかもしれません。札幌出身の彫刻家、本郷新（ほんごう しん 1905年～1980年）本人がその言葉のなかで「踊り子が先にあつたのではなく、地下から天空を支え、雲や風と遊ばせたかった。雨や雪を呼びたかった」と言っています。

アイヌ語地名研究家の山田秀三（やまだひでぞう 1899年～1992年）によると、豊平川のアイヌ名がサッポロペツで（サツ=乾いた ポロ=大きなペツ=川）であり、扇状地を流れる川の特徴、を表しているようです。札幌周辺には沢山の川があり、その川の中で、一番大きな川が「サッポロペツ」。「大きな」という名前はそこからついたようです。では、「乾いた」はどうでしょう。扇状地面を流れる川の特徴として、分水して水量が少ないとか、夏の雨の振らない時期、極端に水が減り、川底の石がごろごろ見えるからといわれています。もしくは、乾いた川跡の沢山ある扇状地そのものをさした言葉なのかと想像できます。

（「ようこそさっぽろ」～札幌、雪と水と扇状地のなりたち～より抜粋）

1. 気候・自然 ～「雪の降る土地」、サッポロから

【気候・風土】

<豊かな自然に囲まれたまち>



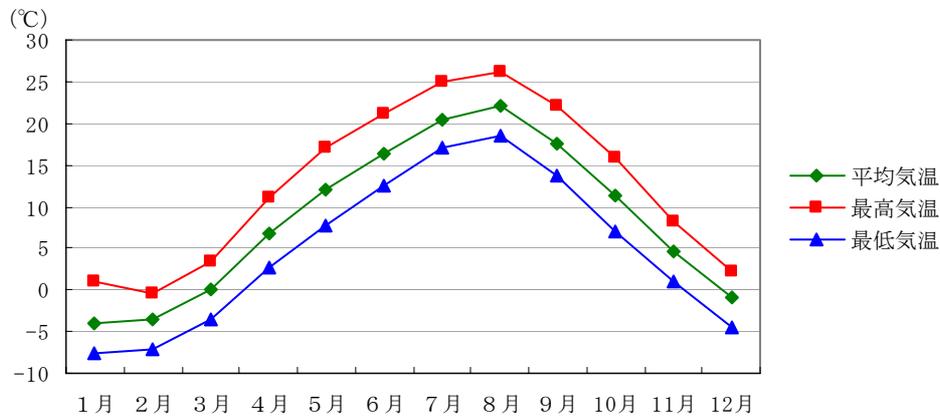
(写真：札幌の観光行政・観光写真ライブラリー)

石狩平野の南西部、石狩川の支流豊平川の扇状地を中心に広がる都市、札幌。市の西部・南部は手稲山・円山・藻岩山など山岳・丘陵が大部分を占めています。また、広い市域の南西約2/3は山岳地帯の森林となっており、支笏洞爺国立公園に指定されている部分もあります。

中心部から車で1時間ほど走れば日本海が広がっており、生活圏内に豊かな山・川・海があり、都市と豊かな自然が近接しています。

<夏は涼しく、冬は寒く>

<月別平均気温（1971～2000年統計）>



(出典：さっぽろお天気ネット「札幌の気候データ：年間」)

参照URL：<http://www.sweb.co.jp/tenki/record/kikouhyou.html>

<月別平均気温（他都市比較）（1971～2000年統計）>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
札幌	-4.1	-3.5	0.1	6.7	12.1	16.3	20.5	22.0	17.6	11.3	4.6	-1.0	8.5
(最高気温)	0.9	-0.3	3.5	11.1	17.0	21.1	25.0	26.1	22.0	15.8	8.1	2.1	12.5
(最低気温)	-7.7	-7.2	-3.5	2.7	7.8	12.4	17.1	18.5	13.6	6.9	0.9	-4.4	4.8
仙台	1.5	1.7	4.5	10.1	14.9	18.3	22.1	24.1	20.4	14.8	9.1	4.3	12.1
東京	5.8	6.1	8.9	14.4	18.7	21.8	25.4	27.1	23.5	18.2	13.0	8.4	15.9
名古屋	4.3	4.7	8.2	14.1	18.5	22.3	26.0	27.3	23.4	17.6	11.9	6.7	15.4
金沢	3.7	3.6	6.5	12.2	16.9	20.9	25.1	26.6	22.2	16.7	11.3	6.5	14.3
大阪	5.8	5.9	9.0	14.8	19.4	23.2	27.2	28.4	24.4	18.7	13.2	8.3	16.5
広島	5.3	5.7	9.0	14.6	18.9	22.8	26.9	27.9	23.9	18.0	12.3	7.5	16.1
高松	5.3	5.4	8.4	13.9	18.6	22.5	26.6	27.4	23.5	17.7	12.4	7.5	15.8
福岡	6.4	6.9	9.9	14.8	19.1	22.6	26.9	27.6	23.9	18.7	13.4	8.7	16.6
那覇	16.6	16.6	18.6	21.3	23.8	26.6	28.5	28.2	27.2	24.9	21.7	18.4	22.7

(出典：さっぽろお天気ネット「札幌と他都市の比較」)

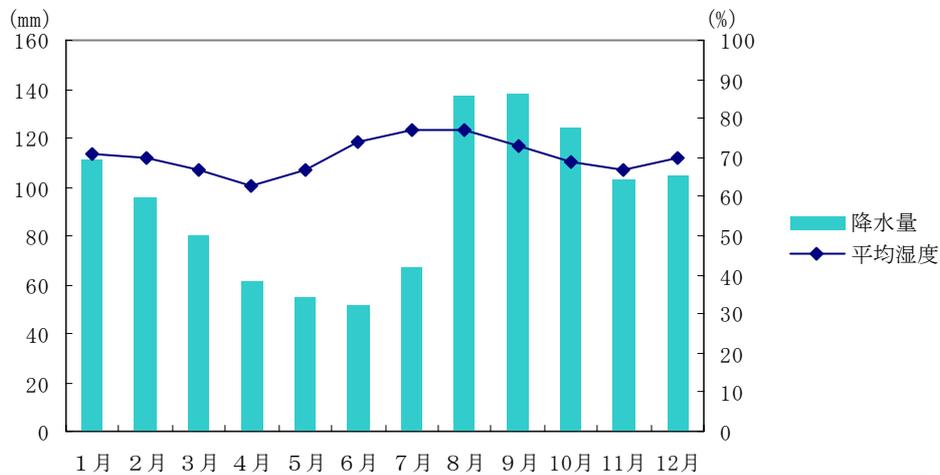
参照URL：http://www.sweb.co.jp/tenki/record/sap_rec.html

札幌の気候は、夏は涼しく冬は寒い気候で、全国主要都市と比べると、一年を通して気温が低いことがわかります。月別の平均最高気温は、7月、8月でも25～26℃程度。30℃を超える真夏日もありますが、夏は過ごしやすい気候といえます。

一方、冬は寒さが際立ちます。12月から翌年2月にかけては、平均気温が氷点下となり、厳しい寒さが続きます。この寒さと降り積もる雪が、札幌というまちのアイデンティティに深く関与しています。

<天然林と雪が豊かな水を安定供給>

<月別平均降水量・湿度（1971～2000年統計）>



(出典：さっぽろお天気ネット「札幌の気候データ：年間」)

参照URL：<http://www.sweb.co.jp/tenki/record/kikouhyou.html>

<月別降水量（他都市比較）（1971～2000年統計）>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
札幌	110.7	95.7	80.1	60.9	55.1	51.4	67.2	137.3	137.6	124.1	102.7	104.8	1127.6
仙台	33.1	48.4	73.0	98.1	107.9	137.9	159.7	174.2	218.4	99.2	66.8	26.4	1241.8
東京	48.6	60.2	114.5	130.3	128.0	164.9	161.5	155.1	208.5	163.1	92.5	39.6	1466.7
名古屋	43.2	64.1	115.2	143.3	155.7	201.5	218.0	140.4	249.8	116.9	79.5	36.8	1564.6
金沢	265.9	184.4	153.3	143.6	154.0	193.7	226.8	164.4	241.9	188.3	267.2	286.9	2470.2
大阪	43.7	58.7	99.5	121.1	139.6	201.0	155.4	99.0	174.9	109.3	66.3	37.7	1306.1
広島	46.9	66.9	120.5	156.0	156.8	258.1	236.3	126.0	180.3	95.4	67.8	34.8	1540.6
高松	39.3	47.6	73.3	86.4	100.1	158.5	134.6	92.3	187.2	108.2	62.4	33.8	1123.6
福岡	72.1	71.2	108.7	125.2	138.9	272.1	266.4	187.6	175.0	80.9	80.5	53.8	1632.3
那覇	114.5	125.2	159.6	180.7	233.8	211.6	176.1	247.2	200.3	162.9	124.1	100.7	2036.9

<月別平均湿度（他都市比較）（1971～2000年統計）>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
札幌	71.0	70.0	67.0	63.0	67.0	74.0	77.0	77.0	73.0	69.0	67.0	70.0	70.0
仙台	65.0	64.0	62.0	64.0	70.0	80.0	83.0	81.0	78.0	71.0	67.0	65.0	71.0
東京	50.0	51.0	57.0	62.0	66.0	73.0	75.0	72.0	72.0	66.0	60.0	53.0	63.0
名古屋	65.0	62.0	60.0	62.0	66.0	74.0	76.0	73.0	73.0	69.0	67.0	66.0	68.0
金沢	75.0	75.0	69.0	66.0	69.0	77.0	76.0	75.0	76.0	72.0	70.0	73.0	73.0
大阪	61.0	60.0	59.0	60.0	62.0	69.0	70.0	67.0	68.0	66.0	64.0	62.0	64.0
広島	67.0	67.0	65.0	64.0	66.0	73.0	75.0	71.0	71.0	69.0	68.0	69.0	69.0
高松	64.0	64.0	65.0	66.0	68.0	74.0	76.0	74.0	76.0	73.0	70.0	67.0	70.0
福岡	64.0	64.0	66.0	67.0	69.0	76.0	75.0	74.0	74.0	69.0	67.0	65.0	69.0
那覇	69.0	71.0	74.0	78.0	80.0	84.0	79.0	80.0	77.0	73.0	71.0	68.0	75.0

(出典：さっぽろお天気ネット「札幌と他都市の比較」)

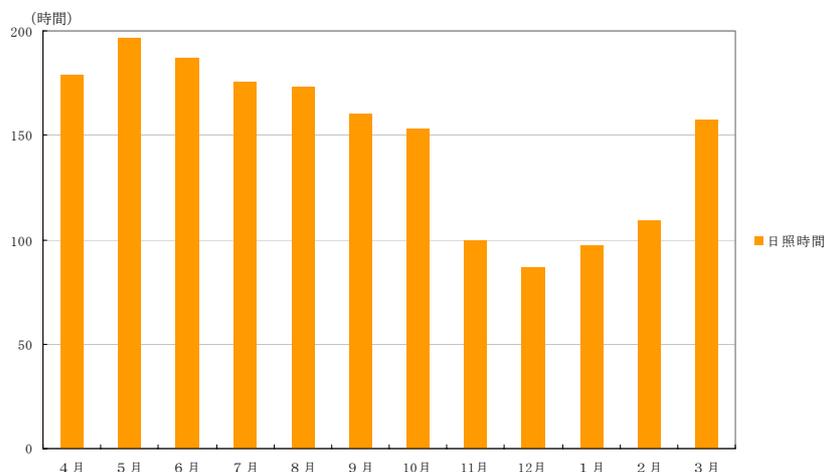
参照URL：http://www.sweb.co.jp/tenki/record/sap_rec.html

梅雨がなく、降水量が全体的に少ないことも札幌の特徴です。それでも渇水にならないのは、冬に積もった雪と豊かな森林が天然のダムとして安定した水供給をしてくれているから。札幌は雪と森に支えられているのです。

また、札幌は全国的にみると湿度の高いまちですが、気温との関係で不快な蒸し暑さを感じる日は多くありません。高い湿気は、雨や雪となって札幌全域に降りわたり、市民の生活を支える豊かな水源となります。

<冬の日照時間は多くなくても、雪あかりが照らす札幌>

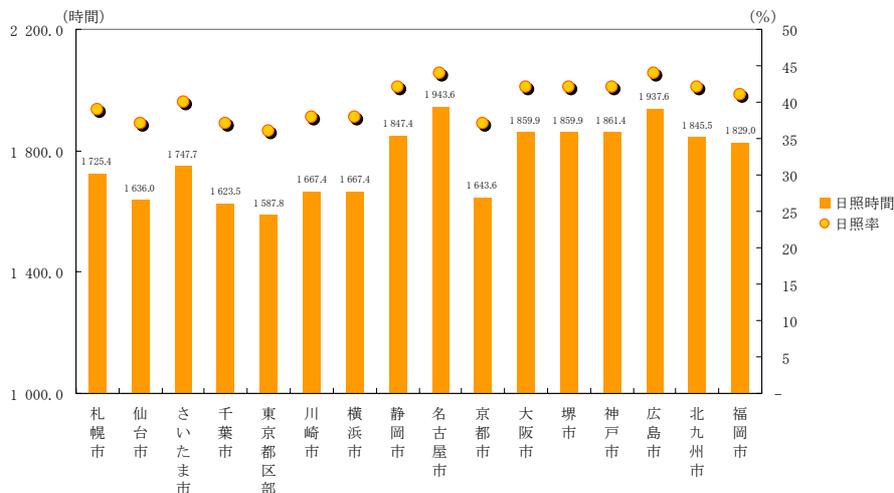
<札幌市の日照時間（1971～2000年統計）>



(出典：気象庁・気象統計情報－「過去の気象データ検索」札幌市データ

参照URL：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

<日照時間（他都市比較）（1971～2000年統計）>



(出典：大都市比較統計年表（平成18年）)

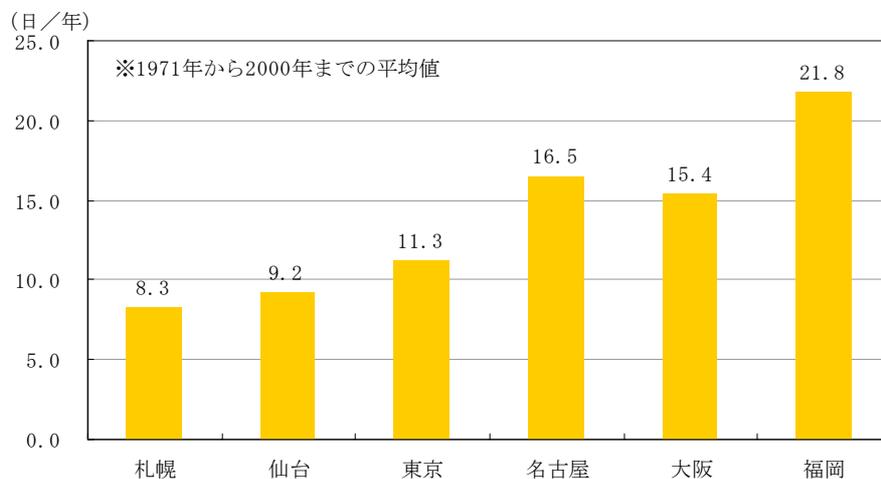
雪が多く日の短いイメージのある札幌ですが、冬至を過ぎ、最も寒さの厳しい小寒（1月中旬～2月）に入る頃には、既に日の長さは春に向かって着実に長くなっていきます。

また、雪が降るとあたり一面が銀世界になるため、日が出ていなくても積った雪が周囲の光を反射し、いつもなんとなく明るい印象を与えてくれます。日が出れば、雪はキラキラと光り輝き、「明るい冬」を強く印象づけてくれるため、札幌の冬のイメージは、住んでいる人にとっては暗く長いものではないかもしれません。

1年間を通しての日照時間では、近年では関東以北の都市に見劣りするものではなく、札幌市は、北の街として北欧と比較されることも多いですが、冬場には全く日の昇らない地域すらある北欧に比べると、札幌は光に満ち溢れた「明るい北国」だと言えるでしょう。

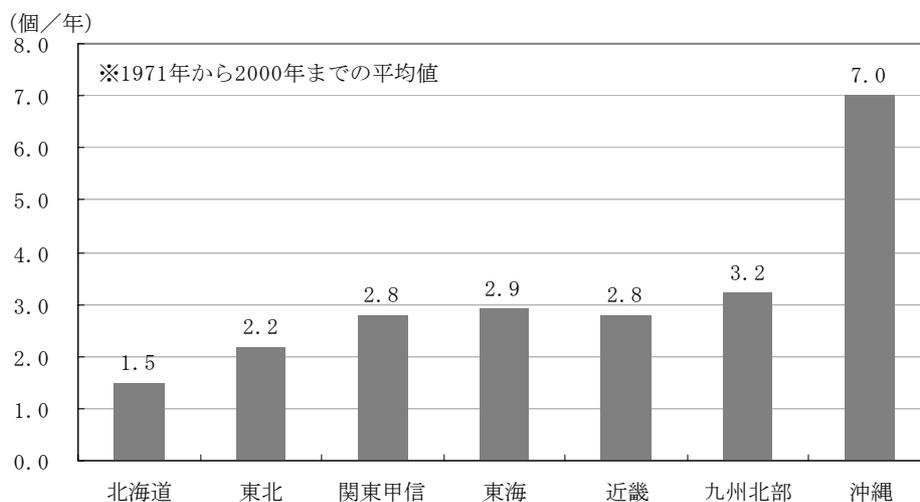
<自然災害のリスクの低いまち>

<雷日数の年平均値（他都市比較）>



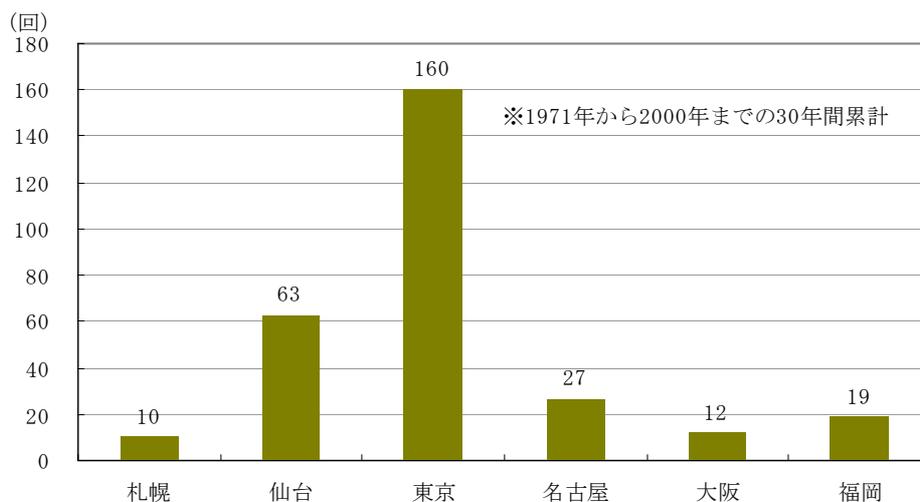
(出典：平成19年理科年表)

<地域別台風接近数の平年値（他地域比較）>



(出典：平成19年理科年表)

<過去30年間の震度3以上の地震回数（他都市比較）>



(出典：気象庁「震度データベース」)

参照URL：http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/shindo_db/shindo_index.html

札幌は全国的にみても台風の接近回数が少なく、地震や雷の被害も少ないまちです。自然災害の少なさは、市民や企業が安心して活動していける基盤となっています。

【水資源・森林資源他】

<良質な水をまちへと運ぶ豊平川>



(写真：ようこそさっぽろ)

札幌の街中にはおいしい水が湧き、いろいろなところで飲むことができます。山に降り積もった雪は、森に抱かれ長い年月をかけて、伏流水となって湧き出てくれます。これも雪のおかげです。街の中を流れる豊平川が水を運んでくれます。明治初期は、少しでも掘ると豊かで良質の水を得ることができたといい、多くの人々がこの豊かな水を目当てに札幌に集まってきたとのこと。いまでも多くの企業が、地下水を工場やビルで利用しています。

(「ようこそさっぽろ」～札幌都心に湧き出る水、札幌の水～より抜粋、一部加筆)

<水を湛えつつ、四季折々の変化を見せる自然>



(写真：ようこそさっぽろ)

札幌の豊かな水は、奥定山溪国有林水源周辺に降る雪や雨のたまものです。奥定山溪国有林は、林齢90～150年程度のトドマツやエゾマツ、ナラ、センなどからなる天然林で、その面積は15,500ha、札幌ドーム約3000個分に相当します。札幌市南西部の豊平川豊平峡ダム上流に位置し、同じ豊平川定山溪ダム上流に位置する西定山溪国有林と併せて、札幌市の上水道の85%を供給しており、「緑のダム」として札幌の豊かな水資源を供給してくれる重要な役割を担っています。

都市部から車で1時間程度の近郊にありながら、豊かな自然にあふれるエリアでもあることから、四季折々の自然を楽しむべく多くの人々が訪れています。

(参考：「水源の森」百選)

<自然と親しむ市民の癒し空間>



(写真：(左)札幌の観光行政・観光写真ライブラリー、(右)ようこそさっぽろ)

札幌市は市域の約63パーセントが森林です。(市域面積1121.12km²に対して、森林面積705.85km²、「平成19年度北海道林業統計」)

上空一万メートルから夜の札幌を見下ろすと、街の光は扇型に広がり、放射線状にちらばって郊外に伸びています。中心部にかなり広い面積で光を発していない地域があります。北海道大学、中島公園、真駒内公園などです。さらに市の南西部から西部一帯の広範囲も光を発していません。支笏洞爺国立公園に連なる山々です。

市内の山を源流にした川は118本。奥深い山にヒグマ、エゾシカ、アカゲラ、キタキツネなどが棲息しています。

市民の多くは休みの日に森林浴やバードウォッチング、植物などの自然観察、川遊び、滝めぐりをしています。

(「ようこそさっぽろ」～森と水に親しむ～より抜粋、一部加筆)

2. 社会・経済 ～豊かな水に支えられた「雪の降る都市」・札幌へ

【文化】

<古くから交流・交易の地であった北海道>



(出典：「古代北方世界に生きた人びと—交流と交易—」展示図録
東北歴史博物館・北海道開拓記念館・新潟県立歴史博物館)

北方で生息されていたとされるマンモスと、南方で生息されていたとされるナウマンゾウ、両方の化石が出土している北海道。

旧石器時代を通じて、縄文時代においては、札幌を含む石狩低地から底の尖った南方の土器と、底の平らな北方の土器が出土しており、札幌近辺は南北の交流点であったと考えられています。

北海道には、古くから南方と北方の文化が交流し、交易していた形跡が数多く残されています。

周囲を海に囲まれた北海道には、サハリンを経由する北のルート、大陸の「都」から直接海を通じて訪れた集団のルート、本州の「都」から東北地方を経由する南からのルートが形成され、異なる3つ（あるいはそれ以上）の文化が集う交流、交易のクロスロードが存在したとされています。

周囲を海に囲まれ、それぞれの海の文化はもとより、海を越えていくつもの文化が入り込み、多様な文化の影響を受けながら、北海道では独自の文化形成が行われていきました。

1～6世紀にかけて、北海道では、本州とは異なり稲作中心の弥生文化は広まらず、狩猟、漁撈、採集を中心とする縄文時代の生活形態が豊かに保持され、続縄文文化と呼ばれる北方圏独自の文化が生まれました。続縄文文化は、サハリン、千島列島、本州との交流を盛んに行いながら北海道全域に拡大し、交流・交易を中心とする北海道の生活文化の基盤をつくりました。

その後、5～9世紀には、南サハリンからオホーツク海沿岸を中心とするオホーツク文化が文化圏を拡大し、北海道の文化形成に大きな影響を与えました。海獣狩猟、漁撈活動を生業として、海洋資源を獲得しながら移動・定住を繰り返すなかで、海洋活動により広域な交易ネットワークが形成され、大陸や本州との交流・交易が一層盛んになりました。このころの出土品には、大陸からもたらされた青銅器や鉄器、本州からもたらされた蕨手刀などが多くみられており、海獣狩猟などで得た天然資源（毛皮や鷲羽、昆布など）を元手に大陸や本州との交流を行い、力を蓄えていったと考えられています。

少し遅れて、7世紀後半には、現在の札幌を含む石狩低地帯において、続縄文文化に本州の文化の要素が加わり、擦文文化が成立しました。擦文文化も、狩猟・採集とわずかな雑穀農耕を生活の基盤とし、他文化との交流・交易が重要な活動となっていたと考えられています。東北地方で生産された鉄製の副葬品が多く出土し、また東北地方北部と同様の古墳もつくられるなど、東北地方のつながりが強くなっており、交流・交易が盛んになっていったことがうかがえます。



(左) 9～11世紀の北方世界（土器の出土分布）
(右上) 札幌で出土した擦文土器（坏・甕）
(北海道北部の土器)
(右下) 札幌で出土した須恵器（東北地方の土器）

(出典：東北歴史博物館・北海道開拓記念館・新潟県立歴史博物館)

「古代北方世界に生きた人びとー交流と交易ー」展示図録)

擦文文化は、10世紀にはオホーツク文化に代わるように、北海道北東部、サハリンや千島列島にまで拡大し、それまでオホーツク文化の担っていた北方の天然資源により、本州、大陸との交易を積極的に展開していったとされています。

北海道の文化が交流・交易を中心に発展してきた背景には、本州にはない北海道独自の豊富な天然資源があります。このような天然資源を重要な交易品として、各地域との交易を展開し、鉄器や漆器などの生活用品を獲得しつつ豊かな生活文化を形成していったと考えられており、中世のころから、北方交易の利権をめぐる東北地方の在地集団による争いが激化していたことなどをみても、北方の天然資源に対する本州の関心の高さがうかがえます。東北地方で栄華を極めた平泉藤原氏の興隆の背景にも、北方交易を独占することで得た利益が大きく関与したとされるなど、その価値は非常に大きなものだったと推測することができます。

擦文文化からアイヌ文化へと移行したとされる13世紀以降も、北海道は、本州の「都」をはじめとする様々な勢力による接触が絶えず、常に交易の重要拠点として注目され、多くの文化的影響を与えていったと考えられます。

その後、豊富な天然資源に依存した松前藩の統治体制や、ロシア南下に対する江戸幕府の国防政策などの影響を受け、長く続いた自由な交易関係は崩壊し、明治政府による開拓の歴史以後もアイヌ社会は圧迫を余儀なくされました。

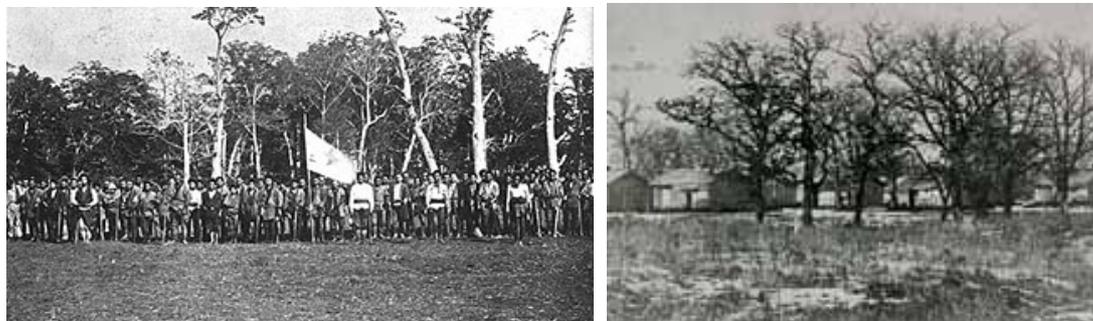
しかし、この水と緑豊かな北海道という土地において、その豊かな自然に育まれた天然資源を資産として、様々な文化と交流・交易を重ねてきた生活文化形成の経過は、現在の札幌の文化形成にも確実に影響を及ぼしていると言えます。

(参考：東北歴史博物館・北海道開拓記念館・新潟県立歴史博物館

「古代北方世界に生きた人びと—交流と交易—」展示図録及び北海道開拓記念館学芸員ヒアリング)

<開拓の歴史も雪と自然の産物>

<開拓当時の様子>



(写真：札幌市文化資料室、所蔵：北海道大学図書館)

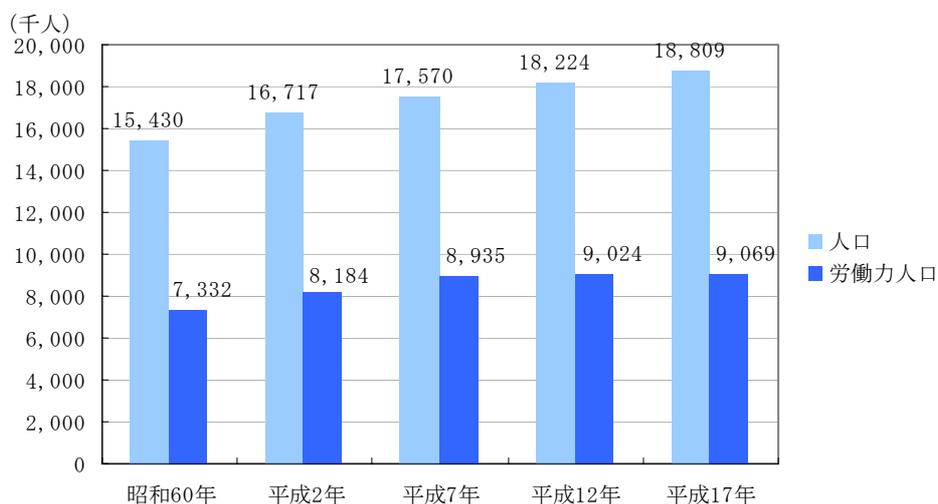
明治初期、北海道開拓使を置くための地域選定において、将来的な都市計画を見据えて、広大で農業のしやすい比較的乾いた土地であること、豊かな水源があること、当時の重要港であった小樽港にも近いこと、大陸に対する防衛拠点としての優位性などの理由から、札幌への設置が決められたようです。

北海道の拠点となった背景には、やはり札幌という土地を支える水、その源となる雪の存在が大きな影響を与えたと言えます。

【人 口】

<自然と人がともにある、北の大都市>

<人口・労働力人口の推移>

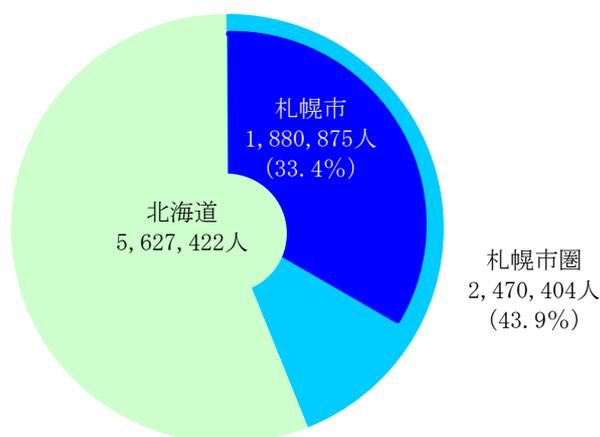


(出典：総務省統計局「国勢調査」)

自然の息吹と人々のエネルギーに満ちあふれた街、札幌。
年々増加を続ける札幌市の人口は、現在約190万人で全国で第5位。労働力人口も約90万人おり、幅広く優秀な人材が集積しています。

<北海道経済・商業の中心>

<北海道における人口比率>

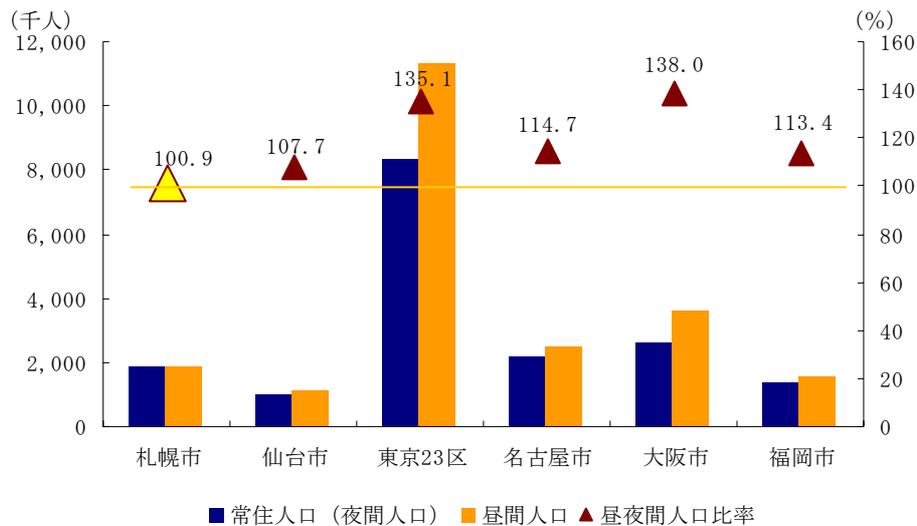


(出典：総務省統計局「平成17年国勢調査」)

札幌市を中心とした「札幌都市圏」の人口は約247万人。圏域内の都市は成長を続けており、一大商圈を形成しています。また、北海道の人口に占める札幌市の人口の割合は、約33.4%超。その割合は増加傾向にあり、北海道の中枢都市としてますます成長を続けています。

<札幌は昼間人口の多い「暮らしやすい」都市>

<昼間人口比率（他地域比較）>



(出典：総務省統計局「平成17年国勢調査」)

昼間人口とは、常住人口に他の地域から通勤してくる人口を足し、さらに他の地域へ通勤する人口を引いたもので、一般的に、都心部では昼間人口のほうが多くなる傾向があります。しかし、札幌では昼間人口と夜間人口の差が他の都市と比べて少なく、経済の拠点性と生活の拠点性の両面を併せ持ったバランスの良い都市であるといえます。

【暮らし】

<雪とともにある暮らし>



(写真：(左) 札幌市交通局、(右) おもしろいしWEB (白石区ホームページ))

札幌の暮らしは、雪と切っても切れない密接なつながりがあります。札幌市の年間の平均降雪量は5mを超えます。世界中を探しても、これほど雪が降る場所に大都市がある例は見当たりません。

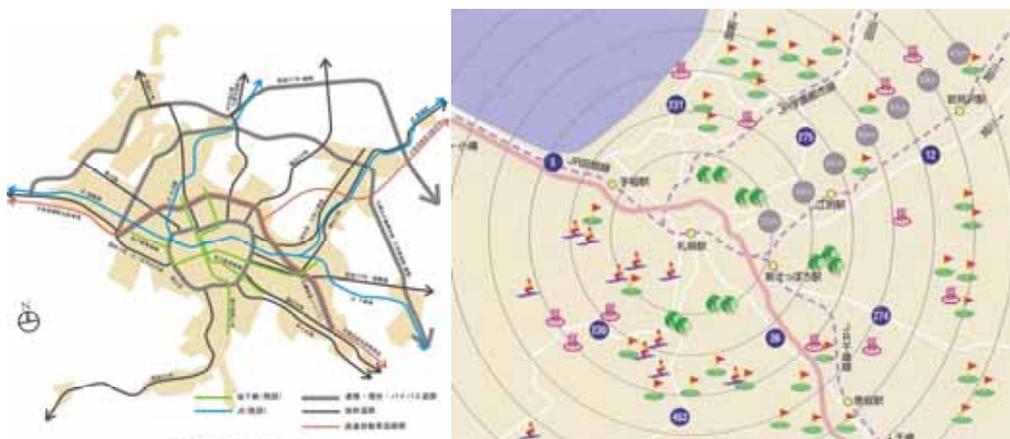
雪は自然のダムとして夏も切れ目なく豊かな水を供給してくれる一方で、冬の生活に対して様々な影響をもたらします。多大な雪対策費用がかかるほか、雪害や交通障害なども引き起こします。雪は必ずしも恵みだけを与えてくれるものではありません。

しかし、この雪の多い土地でどのように暮らしていくか、自然とどう共生していくかを考えながら、冬をできるだけ快適に、楽しく過ごす工夫を模索する中で、札幌に住む人たちはその生活スタイルを磨いてきました。

(参考：北海道デジタル図鑑「雪」)

<都心も豊かな自然もすぐそこにある>

<市内交通路線・近郊スポーツ・レクリエーションスポット>

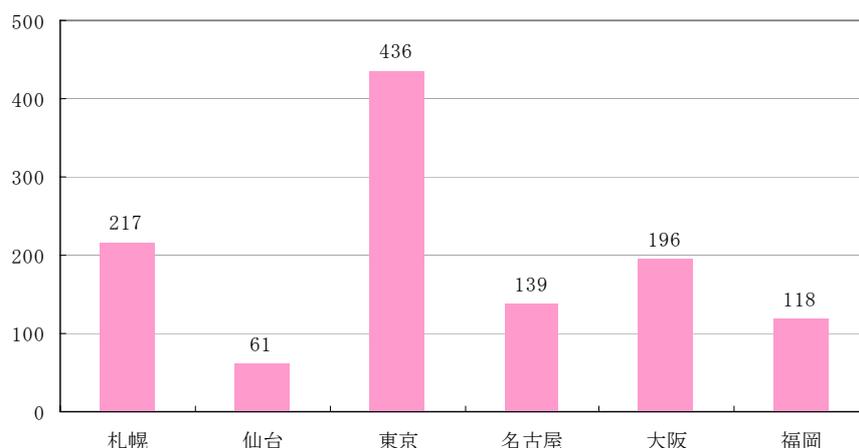


(出典：札幌市「ビジネス拠点札幌のご案内」)

札幌からJRでわずか36分という快適なアクセス環境にある「新千歳空港」は北海道の空の玄関として、ソウル、台北に加え、グアムまでの直行便が毎日就航しています。また全国の空港と結ばれ、各都市への移動も自由自在です。

<充実した医療・福祉環境>

<病院数（他地域比較）>



（出典：厚生労働省「厚生統計要覧」、平成18年10月1日現在）

札幌は医療資源が充実しており、周辺地域の高度専門医療なども担う地域の医療の中核となっています。病院数は全国でも東京に次ぐ多さで、札幌の医療の充実ぶりがうかがえます。

また、福祉においても、子育てサロンや常設の子育て支援センターなどの育児支援体制の充実に加え、高齢者、障がい者に配慮したまちづくり施策を推進するなど、誰もが安心して快適に心ゆたかに暮らすことのできるまちづくりを進めています。

<若者が集う多様な教育機関>

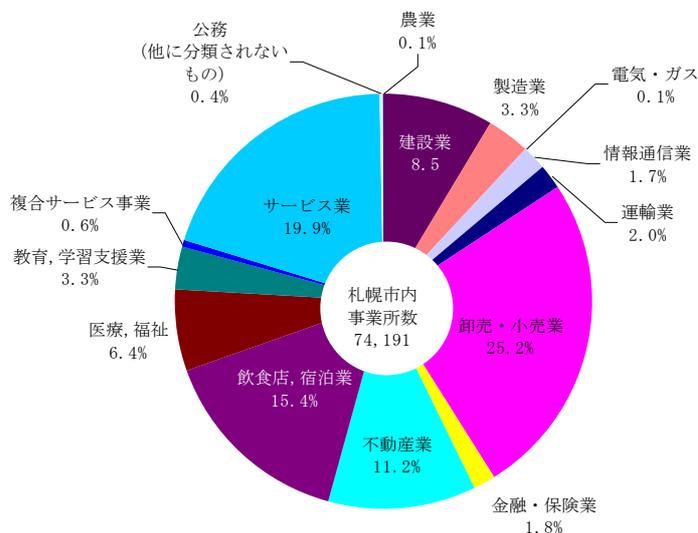
緑豊かな自然と多様な都市機能が調和した札幌には、多彩な人材を育成し輩出する土壌が整っています。

札幌市内には、国公立大、私大合わせて大学が15校、短大が9校、専門学校が84校、高等学校も55校あり、約13万人の学生が在籍しています。また、教育機関が集まる学園都市・江別市など周辺都市にも大学などがあり、札幌を中心に広範囲な教育圏を形成しています。

【産 業】

<物流産業、観光関連産業などの3次産業が発達>

<市内事業所数（産業分類別）>

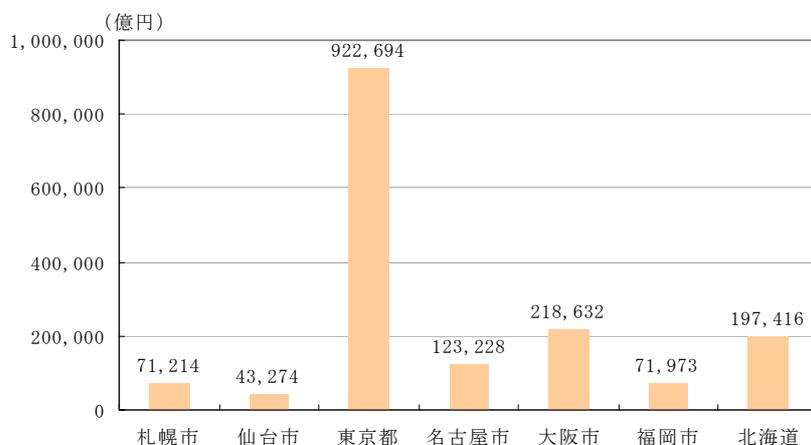


(出典：総務省統計局「平成18年事業所・企業統計」)

札幌市の事業所数をみると、全事業所数は74,191事業所となっており、その内訳は「卸・小売業」が最も多く（構成比25.2%）、次いで「サービス業」、「飲食店、宿泊業」が続いています。従業者数も、事業所数と同様の傾向がみられ、第3次産業を中心とする産業構造となっています。

<北海道の経済活動の中枢を担う>

<市内総生産（平成17年度）>

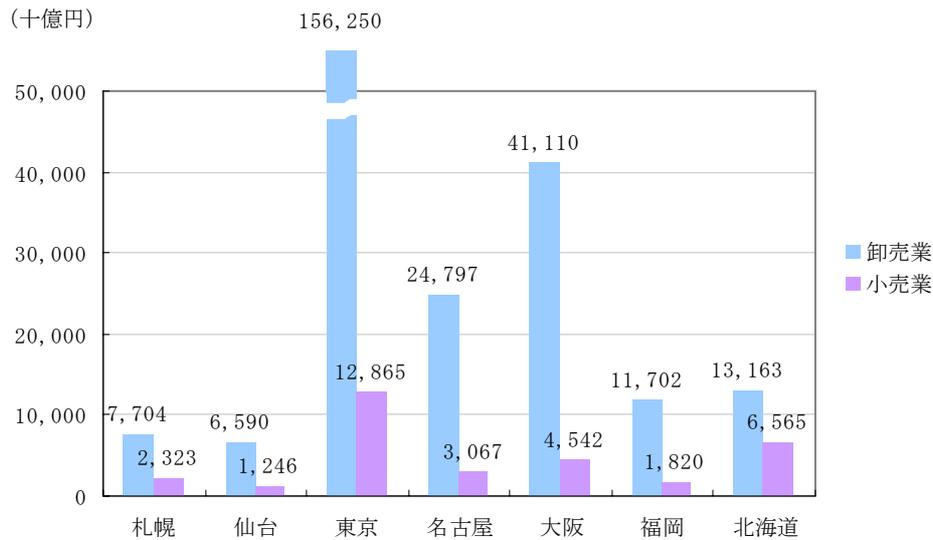


(出典：各都市統計資料より作成)

札幌市の経済力を表す市内総生産は平成17年度で7兆1,214億円で、全国でも上位。また、北海道全体の36.1%のシェアを占めており、北海道における札幌経済の大きさを物語っています。

<ビジネスチャンスをもたらすビッグマーケット>

<年間商品販売額（他都市比較）>



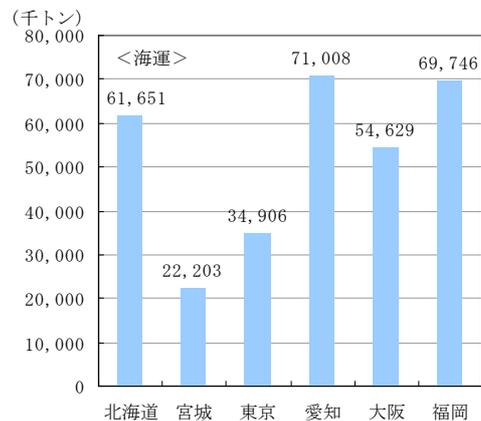
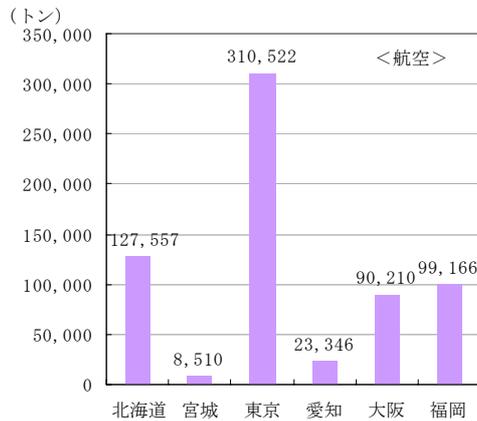
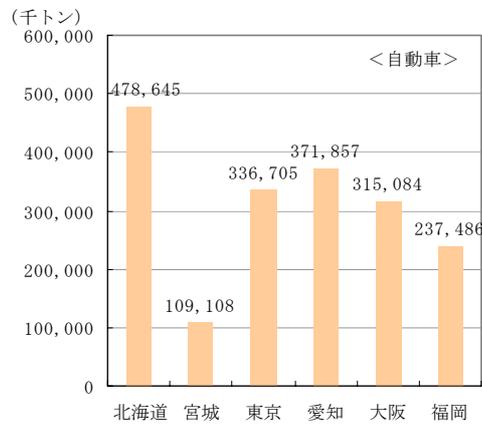
(出典：経済産業省「平成16年商業統計調査」)

北海道の中核機能が集中するこのまちは、産業と経済の隆盛とともに一大消費地を形成してきました。その巨大な市場はビジネスシーンに多彩なチャンスを与えています。

北海道における札幌市の年間販売額は卸売業で58.5%、小売業でも35.4%。商業の中心地として重要な役割を果たしています。

<円滑な物流環境を生み出す交通ネットワーク>

<貨物輸送量（他地域比較）>



(出典：国土交通省「平成17年度貨物地域流動調査」)

札幌市を中心とした約60km圏内には、空港、港湾などの物流機能が集積。全国でも屈指の貨物輸送量を誇る北海道の、産業・経済を支える拠点として重要な役割を果たしています。

古くより交流の拠点であった札幌は、今日でもその機能を受け継ぐ商業の中心地となっています。

【文化・交流】

<観光都市としての文化の醸成>



(写真：(右) ようこそさっぽろ、(左) 札幌の観光行政・観光写真ライブラリー)

札幌は全国でもトップクラスの観光都市。過ごしやすい夏の気候と豊かな自然は、夏場に多くの観光客を楽しませています。また、寒さと雪を逆手にとった「さっぽろ雪まつり」は、「札幌は雪のまち」というイメージを国内外に広く印象づけており、美しい雪像・氷像が毎年数多くの来場者を魅了しています。特に近年では、台湾や韓国、中国など、アジア諸国からの観光客が増加しており、北海道観光の拠点として、その存在感を高めています。

多くの人が行き交うことで、絶え間のない刺激や変化が生まれつつも、それがじっくりとまちに染みわたり、融け込んでいく。そういった営みが今日の札幌の文化を形成していつているのです。

<札幌人の気風>

札幌は明治以来、都市計画に従って人工的に作られた希少なまちです。アメリカやヨーロッパの異質な文化も積極的に受け入れてきたため、古いしがらみや伝統とは無縁。新しいことにも抵抗なく取り組める自由な気風があります。札幌人の気風も、札幌というまちを魅力的に感じさせる一つの要因となっているのかもしれませんが。

3. 札幌スタイルの源泉（札幌スタイルが大切にしている札幌らしさ）

本調査の重点的視点とした「雪」、「交流」の観点での調査の結果として、札幌スタイルの源泉は、以下のように整理された。

雪がある。だから札幌がある。

雪は札幌を支えるすべてのみなもと。

命と暮らしを支える水は、雪からの贈り物。

（札幌は世界でも有数の降雪都市。積雪は年間5mにも及ぶ。）

（冬の積雪のおかげで、降水量の少ない春から夏にかけても豊かな水供給がある。）

（雪解け水は長い年月をかけて地下を渡り、ミネラルを豊富に含んだ良質な水で、暮らしを豊かにしてくれる。）

豊かな森は天然のダム。雪の恵みを年中与えてくれる宝物庫。

（市域の63%が森林。奥定山溪の豊かな森が雪を蓄え都心の暮らしを支えてくれる。）

（多彩な表情をみせる森林は、暮らしにやすらぎを与えてくれる。）

札幌の雪は「あたたかく、明るい」。

（札幌の雪は、軽くふわりとしていて、どことなく“あたたかさ”がある。）

（降り積もった雪の反射、冬至を境に春に向け長くなっていく日照時間。雪や寒さが演出してくれる札幌の冬は、意外に明るい。）

冬を楽しむ喜びも、春を感じる喜びも、雪があつてこそ。

（札幌のまわりには雪を楽しむことのできる場所がいっぱい。）

（冬から春へと移りゆく自然のダイナミクスは、雪国ならではの光景。）

（四季のすべてが喜びの彩りに満ちている。夏は涼しく、そしてまぶしい季節。秋は染まる景色と豊かな食が愉しみとなる。）

青白き雪が、すべてを静かに浄化する。

（雪の青白さは、穢れや縛りのない世界を想起させる。人柄と相まって、札幌の良好な都市イメージ形成に大きく寄与している。）

白く、青く、それでいてどこかあたたかい。

雪とともにあるまち、札幌。

交流、それがこのまちの原点。

人やモノ、そして文化が交わり、融け込んでいくまち、札幌。

北海道は文化のクロスロード。

(マンモスとナウマンゾウ、先の尖った南方の土器と底の平らな北方の土器、古くから南北の交流点だった札幌。)

(本州、オホーツク、大陸の3つの文化が絶えず交流する中から、取捨選択して独自の文化を形成。) ※稲作を選ばなかった北海道人。

(封建社会に属さない文化が、土地に縛られることのない自由な風土を生み出す。)

独自の天然資源を武器とした強い交易力。

(海獣の毛皮や鷲羽、昆布などを元手に、大陸や本州と積極的に交易。独自の天然資源には高い価値が見いだされ、北方交易の利権が争いの火種となるほど。)

(高価な副葬品や服飾品、生活用品などの出土が、強い交易力やそれに伴う生活の豊かさを想起させてくれる。)

豊かな土地に育まれる交流都市。

(今では人口190万人。北海道の拠点としての顔も兼ね備える。)

(都市でありながら自然が近く水が豊かで、暮らすことにも適したまち。)

(拠点都市として国内、海外とのアクセスも容易。人が集い、交わりやすいまち。)

現代へと続く交流と交易の系譜。

(市内の主要産業は流通や飲食・宿泊関連のサービス産業。人と物の流れが今も札幌を支えている。)

(日本でも有数の入り込み数を誇る観光都市・札幌。雪と自然、そしてその土地が生む空気が、多くの人を魅了する。)

多様な文化が土地に融け、馴染んでいく。

雪が森によって豊かな水となるように。

交流が育むまち、札幌。